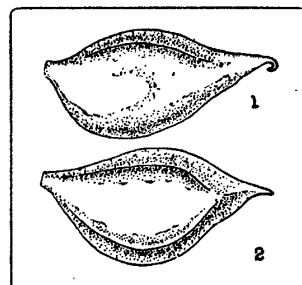


ハクウンボク、アブラチヤン、サバダツ、コアヂサキ、ヤマアヂサキ、オホバクロモチ、オホバケクロモチ、ベニツクバネ、ガクウツギ、コムラサキ、ヤブムラサキ、シロモチ、コミネカヘデ、イモノキ、ツリバナ、クサギ、バイクワツツジ、ネヂキ、シラキ、フヂウツギ等なり、蔓本にはミツバアケビ、サルナシ、マツブサ、ツタウルシ、アマヅル、ゴトウヅル、等あり、草本にはテバコモミヂサウ、ツクシイハカガミ、イガホホヅキ、バイケイサウ、ホクチアザミ、ウスヒメワラビを著しき分子となす。

キツネノボタンとケキツネノボタン

大井次三郎

日本産の植物中凡そキツネノボタン程 Nomenclature の面倒なものは澤山はあるまい。此のキツネノボタンとケキツネノボタンとの學名については兎も角としてその両品の區別は、牧野博士が植物研究雜誌第七卷の歐文欄 31 頁にキツネノボタンは毛茸が比較的少い事が多い上に瘦果の先端の嘴部が鈎狀に曲ると指摘して居られる。此れによつてはつきりと區別が出来るのでその上に蛇足を加へるには及ばないが、腊葉で見ると瘦果の形にも可なりの相違點が認められる。挿圖の 1 はキツネノボタンの瘦果で全形は稍卵形をなしその上側には中肋に沿ふて一條の隆起が認められるが下側の縁邊には之がなく唯中肋があるだけである。之れに反してケキツネノボタンは挿圖の 2 にも見る様に全体が多少巾の広い倒卵形に近くなりその縁邊には上側にも下側にも各一條の隆起線があつてその断面は丁度六角形を極端に押しつぶした様になつて居り、その點ではむしろヲトコゼリヤシマキツネノボタンに似て來る。キツネノボタンは比較的北方に多く北海道南千島にもあるが、ケキツネノボタンはどちらかと云へば暖地を好み台灣では此植物しかないらしい。



1 キツネノボタン

2 ケキツネノボタン

莎草科植物雜記 4

大井次三郎

16) ホタルキとその近似品

ホタルキ及びその近似品は従來 C. B. CLARKE によつて世界で唯一種 *Scirpus erectus* POIR. のみとされて居たのであるが、私は久しい以前から此事について疑問があつ

たのである。しかし何分にも馬來群島や、印度、支那等で可なり此の類が記載されており、それが唯一種に含まれてしまつて居た爲め各種の形状がはつきりとは判らなかつたのと、此の類の邦産のものの変異もよく判らなかつた爲め、何回も調べたのではあつたが、どうもはつきりしなかつた。最近は大京大の標本も可なり豊富に成つたので少しは自信が付きホタルキが新種である事も判つたので、それだけを Fedde Repertorium 35:44 に他の新種等と一緒に出して置いたが、此所ではホタルキの類に對する私の考へだけを書いて見たい。

従來用ひられた *Scirpus erectus* POIR. なる學名の植物はマダガスカル島の産であつて記載に依ると小穂や鱗片が披針形で後者は鋭尖頭であるが、そんな形のは邦産のものでは畸形品以外には存在しない。その上 KUNTH は此れを瘦果の剛毛のない *Isolepis* 屬に入れて居るが本邦産のものは剛毛は常に存在する。その他ホタルキ類似のもの名前として *S. debilis* PURSH, *S. juncooides* ROXB., *S. luzonensis* PRESL. 等があるが、*S. debilis* PURSH は北米産のものでホタルキに似て居るが、鱗片が一層膜質のものである。*S. juncooides* ROXB. 及び *S. luzonensis* PRESL は記載によるとホタルキではなく、此れに似て瘦果の不同レンズ形のもので、本邦でその一種と考へられて居るもの様であるが此の植物にはそれよりも古い有効名である *Scirpus lateralis* RETZ. を用ふべきである。尙牧野博士のフトコキ *Scirpus subquadrangulus* MAKINO は此の植物を指すものではあるまいか、台灣産としては此れとタイワンヤマキとが知られて居る。以下従來ホタルキと云つて居たものの種類について検索表をかゝげて見ると。

- 1) 瘦果は長さ 1-1.5 ミ.メ. 莖及び鱗片は稍軟かし。
 - 2) 瘦果は長さ 1.3-1.5 ミ.メ. 本州の高山（越中立山、尾瀬、羽前朝日岳、吾妻山、藏王山等）に生ずる。 *Scirpus hondoensis* OHWI. ————— ミヤマホタルキ
 - 2) 瘦果は長さ 1 ミ.メ. 内外。滿洲。 *Scirpus hondoensis* var. *leiocarpus* OHWI comb. nov. (= *Scirpus supinus* var. *leiocarpa* KOMAR.) ————— マンシウホタルキ
- 1) 瘦果は長さ 1.8-2 ミ.メ. 莖、鱗片は稍硬し。
 - 2) 瘦果はその断面扁三角形。
 - 3) 莖は細く殆んど圓柱形。小穂は鈍頭又は稍鈍頭。鱗片は巾廣き圓形。瘦果の剛毛は瘦果よりも少しく短かく乃至少しく長し。北海道、本州、九州、朝鮮、滿洲。 *Scirpus Hotarui* OHWI. ————— ホタルキ
 - 3) 莖は稍太く數個の稜角あり。小穂は稍鈍頭又は稍鈍頭。鱗片は廣卵形。剛毛は瘦果よりも明かに長し。本州、四國、九州。 *Scirpus trapezoideus* KOIDZ. ————— シカクホタルキ

- 2) 瘦果は断面不同レンズ形。
- 3) 莖は硬く細く圓柱形。花序の上部の苞は長し。小穂は多くは綠色。銳頭。鱗片は卵形。瘦果の剛毛は明かに瘦果よりも長し。本州。四國。朝鮮。台灣
Scirpus Sasakii HAYATA. ————— タイワンヤマキ
- 3) 莖は稍太く數條の稜線あり。花序の上部の苞は比較的短かし。小穂は多くは淡褐色を帯び鈍頭又は稍銳頭。鱗片は廣卵形。瘦果の剛毛は瘦果よりも少しく長く乃至僅かに短かし。本州。四國。九州。朝鮮。琉球。台灣。(フトコキ?) *Scirpus lateralis* RETZ. ————— イヌホタルキ

菊科植物雜錄 II

北村四郎

本誌第一卷二百六十四頁—二百六十六頁にかけて我が國への輸入植物を記述したが更にこれに次いで記録する。

8) *Crepis tectorum* L. Sp. Pl. (1753) p. 807 ; REICHENBACH, Ic. Fl. Germ. XIX. tab 1452 II ; HEGI, Fl. Mittel-Europa VI2 p. 1165 fig. 843 ; BONNIER, Fl. compl. Fr. Suiss. Belg. VI p. 91 Pl. 359 fig. 1714 ; HULTÉN ; Fl. Kamtchatka IV (1930) p. 232 ; KOMAROV, Fl. Man. III. (1907) p. 786.

Nom. Jap. YANE-TABIRAKO n. n.

Hab. Sachalin. Toyohara (1 Sept. 1931 S. OTAGIRI) ibiden (1 Aug. 1927 S. SUGIWARA).

原産地は歐洲。滿洲のもカムチャツカのも移入者らしいと云はれてゐる。樺太のも私は移入者と考へる。和名は屋根タビラコの意である。

9) *Xanthium spinosum* L. l. c. p. 987 ; REICHENBACH, l. c. XIX t. 1575 ; HEGI, l. c. VII 502 ; BONNIER l. c. VII p. 29 Pl. 372 fig. 1759 BRITTON & BROWN III. Flora Northern States and Canada III ed II. p. 344 fig. 4132.

世界的に廣く移入された今日、どこから來たのか不明である。アメリカの學者はメヂア、ヨーロッパが原産と云ふ、家畜が喜んでこの植物全體を食ふし、古ローマ人は頭髮を染めるにこの植物を使用したと云ふ。尙近代この植物から黄色の染料を工業的に取つてゐた。佛名では Lampourde épineuse, 獨名は Dornige-Spitzklette, 英名は